

愛知大学経営学部

愛知経営論集

第167号

論 説

- 数理計算上の差異とリサイクリング
 田 子 晃 1
- 空間相互作用モデルの応用に関する研究
 —— 観光目的の宿泊者を対象にして ——
 加 藤 好 雄 19
 楊 贊 贊
 神 頭 広 好
- 三菱財閥の株式公開と株主総会
 —— 三菱商事・三菱本社の事例 ——
 石 井 里 枝 33
- 会計観の変遷
 —— 静態論・動態論的思考の観点から ——
 粥 川 和 枝 71
- 議選監査委員の
 メリット・デメリットに関する一考察
 吉 本 理 沙 101

資 料

- 学術誌の査読と無料の査読付き
 英文オンラインジャーナル
 星 野 靖 雄 133

2013年2月

愛知大学経営学会

AICHI KEIEI RONSHU

(THE AICHI JOURNAL OF BUSINESS)

No. 167

Feb. 2013

Articles

- Actuarial Gains or Losses and Recycling
..... Akira Tago 1
- Study on Application of a Spatial Interaction Model
-About the Lodger for the Purpose of Sightseeing-
..... Koyu Kato 19
Yang Zanzan
Hiroyoshi Koza
- IPO and Shareholder Meetings in Mitsubishi Zaibatsu:
Cases of Mitsubishi Trading Co.
and Mitsubishi Zaibatsu headquarters
..... Rie Ishii 33
- The Change in the View of Accounting:
From the Viewpoint of Static and Dynamic Accounting
..... Kazue Kayukawa 71
- Pros and Cons of Audit and Inspection by Council Members
..... Risa Yoshimoto 101

Material

- Refereeing of Academic Journals and Open Access
Refereed Online Journals in English
..... Yasuo Hoshino 133

~~~~~  
*PUBLISHED BY*

THE SOCIETY OF  
BUSINESS ADMINISTRATION  
AICHI UNIVERSITY

〈資 料〉

## 学術誌の査読と無料の査読付き 英文オンラインジャーナル

星 野 靖 雄

愛知大学では、現在学内から何種類かのいわゆる紀要が発行されている。当方が所属している内部組織として愛知大学経営学部・愛知大学経営学会の紀要としての愛知経営論集、学内研究所である経営総合科学研究所から出ている学術誌としての経営総合科学と研究叢書、国際問題研究所からの学術誌としての国際問題研究所紀要と研究叢書、情報メディアセンターからの愛知大学情報メディアセンター紀要、国際中国学研究センターからのICCS 現代中国学ジャーナルそして中部地方研究所からは特定のテーマでの年報等である。さらに、大学院生のために大学院協議会からの愛知論叢という紀要もある。大学からの予算によるこれらの出版物の存在により、愛知大学に所属する教員と研究者の発表の機会には十分にあるといえる。

学術雑誌の水準を維持、向上するために必要な措置は、査読（レフェリー）である。これは、学術誌に投稿された論文等を、匿名の2名以上の研究者がその内容を評価し、掲載できる水準であるかどうかを判定し、編集委員長と査読者の承認が得られれば掲載するということである。掲載されるにしてもほとんどの場合、改定要望が送られ投稿者は改定して査読者の了解がないと出版できない。投稿から掲載される確率は受容率（Acceptance ratio）といい、ランクの高い学術誌だと10%以下のものもある。無料のオンラインジャーナルである International Business Research では、2012年の第3四半期で53.5%（61/114）、第2四半期で56.4%（62/110）

と記述している。International Business Research (2012)

愛知大学の紀要は基本的には、この査読制度がなく、例外的に国際問題研究所では、本年度からの論説での投稿に対しては査読による採用制度を運用するようになったし、査読があることを投稿規程で宣言している ICCS 現代中国学ジャーナルのように、ほぼ年1回しか発行されていない学術誌があるのみである<sup>1)</sup>。また、外部からの招待者による投稿もあるが基本的に内部指向が強いため必ずしも適切な査読が採用されているとはいえない。星野 (2011)

査読が実質的にはなく、原稿を執筆すれば掲載されるというのは学術誌としては問題である。学会誌でありながら査読がないことによる問題は、最近の事例をみれば明らかである。租税法学会の学会誌に、分野の異なる研究者のブログから米国の税制を解説した3頁も無断転用した学会の理事長による論文が掲載・発刊され、会員の指摘により出版社を通じてすべて回収したとある<sup>2)</sup>。この学会では、学会誌に記載がないので、査読を実施していないと思われる。

日本の学会での査読の有無については、経営関連学会協議会 SSCI 問題委員会による学術誌の評価のあり方に関する答申が出ているので、その概要を述べる。この委員会では、当時の61構成学会に対して、2010年1月から10月にかけてアンケート調査を実施している。アンケートの設問には、学会誌の査読では、レフェリー制(2人以上)が導入されているかどうか、学会誌は定期的発行かどうか、発行頻度等について聞いている。回答した32学会のうち、3学会では査読をしていなく、年4回発行が3学会、年3回が2学会、2回が11学会、1回が15学会であったとしている。査読のない学会がまだ存在していることがわかり、約半数の学会が年1回しか学会誌を発行していないのが現状であることがわかる。SSCI (Social Science Citation Index)<sup>3)</sup>に認知されるには年4回以上の発行条件が必要であり、それを満たしているのは日本経営工学会、経営情報学会、日本情

報経営学会の技術系の3学会だけである。しかしながら、回答した61学会の学会誌はすべて、SSCIの採択基準に対応していなく採択されていない、経済学、OR、心理学、社会学での各1誌のみが採択されているとしている。経営関連学会協議会 SSCI 問題委員会 (2010)

査読があると通常2名以上の匿名の研究者による厳重な内容のチェックがあり、研究の水準が不十分なら掲載されなく、掲載されるにしても数多くの修正、書き直し、計算のし直しを要求され、実際に学術誌に掲載するのに時間がかかる。場合によっては、数年かかることもありうるのである。また、投稿するのに投稿料がかかる学術誌もある。例えば、筆者が Associate Editor をしている学術誌 Pacific Basin Financial Markets and Policies (PBFMP, World Scientific より季刊) では、\$90 かかるのである。また、この雑誌の編集長である Rutgers 大学の Cheng-few Lee 教授が別に編集長をしておられ、筆者も査読をよく頼まれる Review of Quantitative Finance and Accounting (RQFA, Springer より出版される隔月の学術誌) は投稿料 150 ドルである。そして、投稿料を支払っても掲載が拒否されれば、その金額は返ってこなく損失となる。ただし、査読者からのコメントが付いてくるので論文を改定して別の学術誌に投稿はできる。ランキングの高い学術誌から比較的低い学術誌に投稿し直すことになるので時間がかかるのである。査読に要する時間は、通常最低、半年くらいを予定しなくてはならない。また、以上のいわゆる査読付き洋雑誌は本学では現時点で図書館では購入していないので、本学図書館が契約しており学術誌を収録している ProQuest では PBFMP を見ることはできなく、RQFA では1年以内のものは閲覧ダウンロードできない。World Scientific 社や Springer 社との直接の契約か、それらを含んでいるデータベースとの契約が必要である<sup>4)</sup>。

本学の教員の人事では、基本的には査読がない大学の紀要と、難しく時間やコストがかかる海外の査読付き学術誌に掲載した論文を同じ1点と数

えていると聞いている。そのような人事をすれば、海外、国内の査読のある学術誌に掲載しようとする意欲がそがれ、大学の評価に影響すると考えられる。査読付きのランキングの高い学術誌への論文の掲載へのインセンティブをつける必要が、大学の経営戦略上重要である。

近年、オンラインジャーナル、特に、有名な出版社との契約がないと閲覧ダウンロードができないことに対抗して、無料で閲覧ダウンロードできるいわゆるオープンアクセスの査読付き学術誌が数多く出版されるようになってきた。筆者の経験では、最初に共同論文を2009年に出版したAsian Journal of Finance & Accounting<sup>5)</sup>はオンラインだけの学術誌である。この雑誌を出しているMacrothink Institute Inc.からは、Biology and Medicine, Economics and Management, Sciences and Engineering,そしてSocial Sciences and Humanitiesの4領域に分かれ、Economics and Managementでは先の掲載雑誌以外に、Business and Economic Research, Business Management and Strategy, Journal of Management Research, International Journal of Accounting and Financial Reporting, Research in Applied Economics,そしてInternational Journal of Human Resource Studiesの計7誌を出している。その上、Social Sciences and Humanitiesの内の8種類の雑誌のうち、Environment Management and Sustainable DevelopmentとJournal of Public Administration and Governanceという経営学関連の学術誌も発行している。

2編の共同論文を2010年に出版した前述のInternational Business Research (IBR)<sup>6)</sup>、本年に2編出版したInternational Journal of Business and Management (IJBM)<sup>7)</sup>はともに、Canadian Center of Science and Education (CCSE)という組織が母体であり、両者ともオンラインが先で、印刷されたプリント版がその後に出てくるタイプである。そして本年、各1編出版したBusiness Management Journal (BMJ),

International Business Management (IBM)はオンラインだけである。両方出している場合には、ISSN番号はオンライン版とプリント版では異なっている。例えば、International Business Research (IBR)ではプリント版がISSN 1913-9004で、オンライン版がISSN 1913-9012である。2008年は年2回の発行であったが、2009年より2011年までは季刊となり、2012年にはVol. 5, No. 11と毎月刊行に成長発展している。International Journal of Business and Management (IJBM)については、現時点でVol. 7, No. 22と月2回出版のように拡大している。CCSEからは、学術誌がBiology & Medicine, Economics & Management, Education and Linguistics, Sciences and Engineering, Social Sciences & Humanitiesの5領域に渡っており、Economics & Managementでは、前述の2誌以外にもEngineering Management Research, International Journal of Economics and Finance, International Journal of Marketing Studies, Journal of Management and Sustainabilityと計6誌の学術誌を出版している。また、Social Sciences and Humanitiesには、2012年にVol. 8, No. 13まで出しているAsian Social Sciencesも入っている。Business and Management Journal, International Business Management誌では、前述のAsian Journal of Finance & Accounting誌と同様にオンライン版のみでプリント版は出していないのである。紙媒体での出版のコストがかかり、郵送等の費用が発生するためと考えられるが、コストを著者達に負担させればあまり問題はないようにみられる。実際、CCSEからの2雑誌では著者が200-300ドルを支払い、2冊を無料で受け取るようになっている。紙媒体があった方が、図書館等で購入して展示すれば存在を示せるという宣伝効果があり、投稿者が増加すると思われる。

オンラインジャーナルの特徴は無料での閲覧ダウンロードのみならず、査読のスピード化を宣言している場合が多い。例えば、International Business Research誌では、編集者へ原稿をWordファイルで送付して1

日から3日以内に原稿の受領をメールで連絡するとしている。もし、返事がなければ受け取っていないことを意味するのである。受領自体の返事が遅い従来の学術誌がかなりある事を考慮すれば、投稿者にとって優れた宣言である。また、査読プロセスには2-3週間かかるとしており、前述のように従来の学術誌に比較して大変なスピードアップである。その分、査読者への負担が大となりまた、不十分な査読が発生して学術誌の評価を低下させるかもしれない。

このオンラインジャーナルは、収録されているデータベースとして Cabell's, EBSCOhost, ECONlit, Library and Archives Canada, Ulrich's 他10種をあげている。これらの点は IJBM でも全く同じである。収録データベースとして、IBRであった ECONLit の代わりに IJBM では、ProQuest に収録されている点が異なっているだけである。

また、CCSE では、査読者を募集している。CCSE (2012) 査読者はパートタイムで、ボランティアで無報酬であり、インターネットにより英語で査読するとある。必要条件として、学術誌に密接に関係する領域で博士号があり、大学や研究機関で教職または研究職についており、学術上の、プロの英語に堪能であり、学術誌に強い興味があり、タイトな締切に早く、正確に仕事ができることを上げている。希望者はネット上の応募ファイルに履歴、業績等を記入してメールで学術誌に送ることになっている。

一番最近にオンラインで出版した Liu et al. (2012) を掲載している International Business Management は Elixir Online Journal からの一誌であるが、やはり、Architecture and Design, Arts and Social Science, Biomedical and Life Sciences, Business Administration and Economics, Chemistry and Materials Sciences, Discrete Mathematics and Cryptography, Earth and Environmental Science, Engineering, Education, Humanities and Law, Medical Science, Physics and Astronomy, Short Communication の13の領域に分かれている。そし

て、Business Administration and Economics の中には、International Business Management の他に、Financial Management, Human resource Management, Marketing Management, Management Arts, Production Management, Tourism Management そして Project Management の7誌がある。

そして International Business Management 誌の最新号には21論文掲載されている。このオンラインジャーナルは、紙媒体がなかったのであるが月刊であり、50ドルの支払いだけであった。また、編集者との連絡と支払いの宛先がインドであったので、インド発のオンラインジャーナルであることが分かった。人件費の違いを反映していると思われる。

筆者が最近、編集委員になった Jyoti Press からの Trends and Development in Management Studies は季刊であるが、まだ発刊されていない。現在、世界では、閲覧・ダウンロード無料の英文オンラインジャーナルが数多く出版されているが<sup>8)</sup>、日本発の年4回以上発行の無料の英文オンラインジャーナルが皆無であるので、是非、学会の連合体たる日本経済学会連合、経営関連学会協議会<sup>9)</sup>、あるいは学会、大学等で出版するよう働きかけたい<sup>10)</sup>。

## 結論と提言

1. 愛知大学の紀要は、基本的に査読が適用されていないので、同じ研究分野が近い研究分野の匿名の複数の外部者による査読を実施して、水準の向上を図る。と同時に査読の必要がないと思われる資料、書評等の領域を拡大する。
2. 昇進、新任人事では査読付き論文の評価を、査読なし論文の評価の何倍かに自己申告させる。
3. ボランティアによる編集と査読とを前提として、無料の英文オンライ

ンジャーナルを刊行するように働きかける必要がある。

注

- 1) 投稿規程での査読は下記に明記されている, 愛知大学国際中国学研究センター 投稿既定 <http://iccs.aichi-u.ac.jp/archives/001/201110/4e93eabe4b442.pdf> しかし, 発行は, ほぼ1年に1冊である。
- 2) 租税法研究会の理事長が, 不適切な引用をして辞任したのはその例である。査読していないことにより出版されてしまった租税法研究第40号を回収している, 日本経済新聞社 (2012), また, 大学の紀要での盗用や, 出版助成を受けた図書での盗用もある。共同通信社 (2012), 読売新聞社 (2012)
- 3) SSCI はトムソン・ロイター社のデータベース "Web of Science" による検索が可能で, 全世界の主要な社会科学誌 3000 誌を 50 の領域で収録している。 [http://thomsonreuters.com/products\\_services/science/science\\_products/a-z/social\\_sciences\\_citation\\_index/](http://thomsonreuters.com/products_services/science/science_products/a-z/social_sciences_citation_index/)
- 4) 筆者は筑波大学名誉教授であるので, 現時点でも筑波大学が契約している Springer 社のデータベースを部分的にはリモートでも閲覧し, 論文をダウンロードできるし, 図書館は利用できるから, 個人的には問題がない。
- 5) Kumarasinghe and Hoshino (2009) で出版。このオンラインだけの学術誌は年2回発行である。出版社である米国の Macrothink Inc. については, 付表 オープンアクセス査読付き英文オンラインジャーナル一覧 (経営・経済) の7種類のオンラインジャーナル名とそれらの URL を @macrothink.org で掲載している。
- 6) International Business Research に掲載した論文は Kumarasinghe and Hoshino (2010) と Ghahroudi, Turnbull and Hoshino (2010) の2編であり, この時点では季刊となっている。
- 7) International Journal of Business and Management に掲載した2編は Mohd Sam, Hoshino, and Hyati Tahir (2012) と Mohamad and Hoshino (2012a) である。
- 8) ダウンロード無料の英文オンラインジャーナルの一部は付表のようである。
- 9) 筆者は, 1950年に創立された日本経済学会連合の評議員であり, この連合は経済学とこれに関連する諸科学の研究を行っている学者・研究者・専門家の64学会で構成されているとしている。日本経済学会連合 (2012)  
また, 経営関連学会協議会のHP担当理事でもあり, この協議会は2006年設立の経営, 会計, 商学分野の60学会の連合体である。経営関連学会協議会

(2012)

- 10) 国内での英文の査読付き学術誌といえるのには, 例えば, 特定非営利活動法人グローバルビジネスリサーチセンター (Global Business Research Center, GBRC) 発行の Annals of Business Administrative Science (ABAS) がある。査読があるオンラインと印刷媒体の両方で発行されているが, 編集長・編集委員が東大の5人の教員だけで内部的であり, 発行も年1回であり, 1回目の査読期間は3か月, 改定後の再投稿は通常2-8週間であるとしている。応募者の範囲は拡大されているが, 通常の大学の紀要の域を超えていない。Global Business Research Center (2012)

参考文献

- CCSE (Canadian Center of Science and Education, 2012)  
<http://ccsenet.org/web/>
- Directory of Open Access Journals (DOAJ, 2012)  
<http://www.doaj.org/doi?func=loadTempl&templ=supportDoaj&uiLanguage=en>
- Ghahroudi, Mehdi Rasouli, Stephen Turnbull and Yasuo Hoshino (2010) Assets Growth, Foreign Ownership and Type of Industry in Multinational Companies, *International Business Research*, Vol. 3 No. 4, pp. 244-259.
- Global Business Research Center (2012)  
<http://www.gbrc.jp/journal/index.html>
- 星野靖雄 (2011) 科学研究費補助金の申請について, 経営総合科学 第97号, 愛知大学経営総合科学研究所, pp. 97-110.
- International Business Research (2012)  
<http://ccsenet.org/journal/index.php/ibr>
- 経営関連学会協議会 SSCI 問題委員会 (2010) 経営関連学会協議会における構成学会学術誌の評価のあり方に関する答申, 11月21日, 内部資料。
- 経営関連学会協議会 (2012) <http://www.jfmra.org/index.html>
- Kumarasinghe, Sriya and Yasuo Hoshino (2009) Entry Mode Strategies and Performance of Japanese MNCs in Australia and New Zealand: the Role of Japanese Employees, *Asian Journal of Finance & Accounting* 1/1, 87-105.
- Kumarasinghe, Sriya and Yasuo Hoshino (2010) The Role and Perceptions of Middle Managers and Their Influence on Business Performance: The Case of Sri Lanka, *International Business Research*, Vol. 3 No. 4, pp. 3-16.
- 共同通信社 (2012) 日大商学部の論文集回収 海外研究盗用と判断,

<http://www.47news.jp/CN/200604/CN2006042901004507.html>  
 Liu, Hui, Yasuo Hoshino, Sriya Kumarasinghe and Norhidayah Mohamad (2012) Entry Mode, Corporate Characteristics and Profitability of Foreign Companies in Japan, *International Business Management*, 51 11008-11018.  
 Macrothink Institute Inc. (2012) <http://www.macrothink.org/index.htm>  
 Mohamad, Norhidayah and Yasuo Hoshino (2012a) Japanese MNCs Investment Objectives and Subsidiary Performance, *International Journal of Business and Management*, Vol. 7 No. 9 October, pp. 132-148.  
 Mohamad, Norhidayah and Yasuo Hoshino (2012b) Survival and Financial Performance of Japanese Subsidiaries in Malaysia and Thailand, *Business and Management Journal*, Vol. 2 No. 4 June, pp. 21-41.  
 Mohd Sam, Moad Fazli, Yasuo Hoshino and Md. Nor Hayati Tahir (2012) The Adaption of Computerized Accounting System in Small Medium Enterprises in Melaka, Malaysia, *International Journal of Business and Management*, Vol., No. 18, pp. 12-26.  
 日本経済学会連合 (2012) <http://www.gakkairengo.jp/>  
 日本経済新聞社 (2012) 理事長論文で無断転用, 日本経済新聞, 10月13日。  
 読売新聞社 (2012) 相山女学園大教授論文盗用で懲戒免, 読売新聞, 4月25日。

付表 オープンアクセス査読付き英文オンラインジャーナル一覧 (経営・経済)

1. Advances in Management and Applied Economics <http://www.scienpress.com/>
2. Asian Journal of Finance & Accounting [ajfa@macrothink.org](mailto:ajfa@macrothink.org)
3. Asian Social Science <http://ccsenet.org/journal/index.php/ass/>
4. Business and Economic Research [ber@macrothink.org](mailto:ber@macrothink.org)
5. Business & Entrepreneurship Journal <http://www.scienpress.com/>
6. Business Management Review <http://www.bmr.businessjournalz.org/>
7. Business Management and Strategy [bms@macrothink.org](mailto:bms@macrothink.org)
8. Engineering Management Research <http://www.ccsenet.org/journal/index.php/emr>
9. Financial Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Finance Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Finance%20Management)
10. Global Advanced Research Journal of Management and Business Studies,  
<http://garj.org/garjmbs/index.htm>
11. Human Resource Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Human Resource Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Human%20Resource%20Management)
12. International Business Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=International Business Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=International%20Business%20Management)
13. International Business Research <http://ccsenet.org/journal/index.php/ibr/>
14. International Journal of Accounting and Financial Reporting [ijafr@macrothink.org](mailto:ijafr@macrothink.org)
15. International Journal of Advances in Management and Economics,  
<http://www.managementjournal.info/>
16. International Journal of Business and Commerce <http://www.ijbcnet.com>
17. International Journal of Business and Management  
<http://ccsenet.org/journal/index.php/ijbm/>
18. International Journal of Economics and Finance <http://ccsenet.org/journal/index.php/ijef/>
19. International Journal of Human Resource Studies [ijhrs@macrothink.org](mailto:ijhrs@macrothink.org)
20. International Journal of Marketing Studies  
<http://www.ccsenet.org/journal/index.php/ijms/>
21. Journal of Applied Finance & Banking <http://www.scienpress.com/>
22. Journal of Business and Management <http://www.todayscience.org/jbm.html>
23. Journal of Contemporary Management, <http://www.bapress.ca/jcm.php>
24. Journal of Finance and Investment Analysis <http://www.scienpress.com/>
25. Journal of Management and Sustainability  
<http://www.ccsenet.org/journal/index.php/jms>
26. Journal of Management Research [jmr@macrothink.org](mailto:jmr@macrothink.org)
27. Journal of Statistical and Econometric Methods <http://www.scienpress.com/>
28. Management Arts [http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Management Arts](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Management%20Arts)
29. Marketing Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Marketing Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Marketing%20Management)
30. Production Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Production Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Production%20Management)
31. Project Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Project Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Project%20Management)
32. Research in Applied Economics [rae@macrothink.org](mailto:rae@macrothink.org)
33. Review of Economics & Finance, <http://www.bapress.ca/jcm.php>
34. Skyline Business Journal [http://www.skylinesbj.com/about\\_sbj.html](http://www.skylinesbj.com/about_sbj.html)
35. Tourism Management  
[http://www.elixirjournal.org/article\\_view\\_cat.php?tit=Tourism Management](http://www.elixirjournal.org/article_view_cat.php?tit=Tourism%20Management)

2012年11月2日までに筆者が確認したジャーナルだけを収録した。その他のジャーナルについてはDirectory of Open Access Journals (2012) を参照。